

特別支援教育における養護教諭の役割

ー 発達障害児とその保護者を支える心理教育アセスメントの有効性の検討 ー

学校力開発分野 (18220918) 星 川 裕 美

本研究では、特別支援教育における養護教諭の役割と課題の把握を通して、学校の特別支援教育力向上の示唆を得ることを目的とした。アンケート調査では、約 80% の養護教諭が学校の特別支援教育に課題があると回答した。また、発達障害 (疑い・気質含む) 児童生徒は、保健室に頻回来室していることが明らかとなった。さらに、その頻回来室事例に女子の事例が多いことが推察された。このようなことから、養護教諭が学校で苦戦している児童生徒の認知特性を心理教育アセスメントによって捉え、職務の特質を活かしつつ適切な指導・支援の実践や提案を行うことは、学校の特別支援教育力向上につながると考えた。

[キーワード] 特別支援教育, 養護教諭, 心理教育アセスメント, 女子の発達障害

1 問題

2017 年に『発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教師の特別教育支援体制整備ガイドライン』が 13 年ぶりに改定され、「校内における教育支援体制の整備に求められる養護教諭の役割」の項目が追記された。特別支援教育における養護教諭の役割がますます重要になってきたと言える。

養護教諭が常在する保健室は、学校の中で児童生徒にとって心身ともに安心安全な特有の空間であり、個別対応が可能であるため発達障害の児童生徒への支援で利用されることが多い。筆者は今まで養護教諭として、対人関係のトラブルや生徒指導上の問題、学習の遅れ等で自尊感情や意欲が低下し学校や教室に行くエネルギーがなくなった児童生徒と多数関わってきた。

このような保健室登校や保健室頻回来室者への指導・支援は、従来の教育相談活動に加え、特別支援教育の視点を持って児童生徒の特性に応じた対応を行うことで、より適切で効果的な指導・支援になると思われる。しかし、特別支援教育について、渡部(2013)は「小学校では、通常学級における特別な教育的支援を要する児童の指導に関して、その必要性は感じているものの、具体的にどのような支援をしたらいいのかかわからないという困り感を抱えている」と述べている。また、難波(2016)は、「中学校では進路指導、部活動指導、生徒指導上の問題の対応が優先され、特別支援について一緒に考えたり関わったりする余力が残っ

ていない教師がいる」と述べている。全ての教職員が発達障害に関する専門的知識を持ち、学校全体で適切な特別支援教育が実施されることが望まれるが、多忙な学校現場では、特別支援教育をさらに充実させることが難しい状況であると言える。

そこで、学校におけるすべての教育活動の中で児童生徒への心身の発育・発達の支援を担う養護教諭が、発達障害の理解を深め望ましい指導・支援方法を探ることは、学校全体の特別支援教育力の向上に貢献できると考える。

2 目的

本研究では、特別支援教育における養護教諭の役割を明らかにするとともに、保健室来室者への実践事例を通じて課題把握を行い、学校の特別支援教育力向上の示唆を得ることを目的とする。

3 方法

(1) アンケート調査による課題把握

アンケート調査は、山形県内小・中学校の養護教諭 129 名に配付する。質問紙の内容は、特別支援教育の課題を把握するため「発達障害 (疑い気質含む) 児童生徒と養護教諭のかかわり」や「特別支援教育の課題」等に関するものである。調査の結果、回答のあった 106 名のデータ (回収率 82.2%) を分析対象とする。

(2) 教育現場での課題把握

筆者の相談活動記録等を使用し、発達障害の疑

い・気質があると思われる生徒の「対人関係に関する保健室来室事例」の分析を行う。各事例は、事例の性質を損なわない範囲で、プライバシーに配慮した修正を行うこととする。

4 結果

(1) アンケート調査による課題把握

①保健室の来室回数と来室理由について

図1は、発達障害の「診断・判断がある」と「診断・判断はないが、養護教諭が疑い・気質があると感じている」児童生徒の保健室来室状況を示したものである。「疑い・気質があると感じている」児童生徒の保健室来室回数が、他の児童生徒と比べて「大変多い・やや多い」と答えた養護教諭は、中学校で89.6%、小学校で77.5%であった。

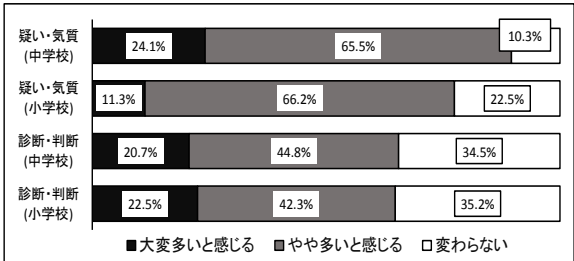


図1 発達障害等の児童生徒の保健室来室状況

発達障害(疑い・気質含む)児童生徒の最も多い保健室来室理由は、中学校が「体調が悪い」82.8%であり、小学校が「けがの手当て」85.9%であった。また、中学校の発達障害(疑い・気質含む)生徒の保健室来室理由を『保健室利用状況に関する調査報告書』(日本学校保健会, 2018)と比較すると、上位2つは同じ来室理由であったが、3番目以降の来室理由に違いが見られた(表1)。

表1 保健室来室理由の比較(中学校)

順位	発達障害(気質・疑い含む)生徒の来室理由 (県内調査より・複数回答)	全校生徒 来室理由 (H28 学校保健会調査より・単一回答)
1	体調が悪い(82.8%)	体調が悪い(21.8%)
2	けがの手当て(44.8%)	けがの手当て(16.8%)
3	悩み事の相談(37.9%)	友だちの付き合い、付き合い(12.3%)
4	休養したい(37.9%)	係、当番、委員会活動(8.8%)
5	先生と話したい(31.0%)	なんとなく(8.5%)

②養護教諭と発達障害等児童生徒のかかわり

発達障害(疑い・気質含む)児童生徒と「クールダウンの場のための保健室提供」でかかわっている養護教諭は、中学校で75.9%、小学校で64.8%であった。「健康相談や教育相談等」でかかわっている養護教諭は、中学校で58.6%、小学校で32.4%であった。中学校の養護教諭は、小学校の

養護教諭よりも直接的にかかわっている割合が高いことがわかった(図2)。

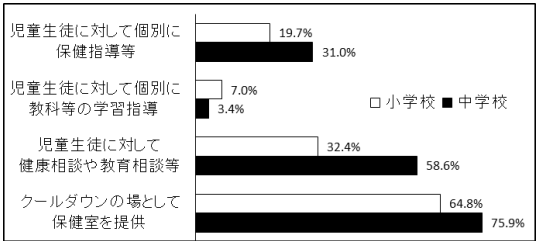


図2 発達障害等児童生徒と養護教諭のかかわり

③勤務校での特別支援教育の課題について

勤務校の特別支援教育に課題があると答えた養護教諭は、中学校85.7%、小学校81.7%であった。課題の内容として最も多く選択されたものは、小・中学校ともに「保護者との連携」(中71.4%、小52.1%)であり、次いで、「医療機関との連携」(中57.1%、小31.0%)、「校内の支援体制」(中33.3%、小19.7%)であった。

(2) 教育現場での課題把握

事例1【教師の叱責で興奮状態になり来室した生徒A】

Aは保健室頻回来室者の一人である。Aは自習授業中トイレに行きたくなり、自習担当のB先生に断わってトイレに行った。しかし、その後すぐに教室に戻らずに廊下をうろうろしていた。B先生は、Aがすぐ戻ってこないで大変心配し、学年主任と共に学校中を探した。やがて、Aが見つかり、B先生と学年主任は、Aに対して指導を行った。指導されたAは興奮状態で保健室に訪れ「自分は悪くない。いつもしていることだ。そんなに怒ることじゃない。あんな奴がいる学校なんて最悪だ。もう二度と学校にこない。」等の暴言を吐いていた。顔面は紅潮し、息も荒く、怒りと悔しさが感じ取れた。**観察と情報収集からの見立てと対応**
【Aの特徴】話が止まらない、多弁、明るい、学力が高い、アニメやゲームが大好き、クラスで孤立している。
【保健室で行った対応】自分がなぜ指導を受けたのか理解できていなかった。Aは人の気持ちを想像することが苦手な生徒であった。そこで、ホワイトボードに文字と絵を書きながら、Aから見た今回の出来事と気持ち、B先生から見た今回の出来事と気持ちを理解できるように相談活動を行った。状況を整理していくと、今回の出来事を理解することが出来たようだった。Aは徐々に落ち着きを取り戻し、教室に戻った。

事例2【部活動の人間関係のトラブルを抱える生徒C】

Cはバスケット部に所属している。運動神経が良く、チーム内で得点能力の高い生徒である。練習をまじめに行わない(と思い込んでしまっている)下級生や自分よりプレー能力の劣っている同級生に対して、厳しいものの言い方が続いており、部活内で孤立傾向にあった。先日Cが部員のプレーミスをサポートに指摘、強い口調で批判したためにトラブルになった。これが原因で仲良しのDも他のグループに行ってしまった。昨日は、Dの様子が特におかしいと感じた。Cは、自分には全く非がないと思っており、困惑し、授業も部活動も全てが不安になり気分不良で来室した。**観察と情報収集からの見立てと対応**
【Cの特徴】思ったことをすぐ口にする、不安が強い、想像力に欠ける、素直、曖昧な話や冗談が苦手、切り替えが早い。
【保健室で行った対応】Cは、自分がきついものの言い方をしてしまうことは母親から指摘されていた。しかし、具体的にどんな言い方をしているのかを聞くことができなかった。不安を取り除くため、この日は放課後の部活動に参加しないことに決め、顧問への断り方を練習した。放課後の話が決まると落ち着き、教室に戻った。

この他にも「グループ行動や他愛のない会話をすることが苦手な女子生徒」、「悪気なく友達同士の内緒の話を広めてしまい、トラブルを招いた女子生徒」等の事例があった。このような女子生徒が保健室に頻回来室する事例を、表2（発達障害の女子にみられる代表的な悩み）と比較すると、注意欠如多動症（以下、ADHD）や自閉スペクトラム症（以下、ASD）の特性が原因で対人関係に苦戦している事例が存在することがわかった。

表2 発達障害の女子にみられる代表的な悩み

	注意欠如多動症(ADHD)	自閉スペクトラム症(ASD)
無力感や劣等感を抱く	【一生懸命頑張っているのに何度もミスを重ねて叱られ、その繰り返し】 ・ボーっとしている ・忘れっぽい ・不器用 ・話をよく聞かない	【小学校までの優秀だったのに中学校に入学したとたん授業についていけない、点数が取れない】 ・得意な科目はいつも高得点 ・苦手な科目についていけない ・スポーツのルールを理解できない
同性に嫌われる傾向	【一方的な発言や態度が自己中と思われ、同性から嫌われ、グループから孤立】 ・おしゃべり ・話が止まらない ・人の話に割り込む ・的外れな会話を ・仕切りたがる ・秘密を話す	【自分がなぜ敬遠や無視をされるのか思い当たらず、強い劣等感を感じてしまう】 ・孤立している ・冗談が通じない ・極端に素直 ・秘密を話す ・思ったことを口にしてしまう ・あいまいな話が苦手
ルーズな人と思われる	【本人は間に合うつもりで行動しているが、予定通りにいかず信頼を失う】 ・時間が守れない ・取り掛かるのが遅い ・用事を詰め込み過ぎる ・考えがまとまらない	【生活や学校で感じるストレス、成長による自分の変化に戸惑い、心身ともに疲れ切った状態が続く】 ・頻繁に体調不良を訴える ・朝起きられない ・気分のアップダウンが激しい ・自分の成長に戸惑う

先行研究 宮尾(2016)を参考に筆者が作成

5 考察

(1) アンケート調査による課題把握より

アンケートの調査結果では、発達障害(疑い・気質含む)の児童生徒の保健室来室回数が多いことがわかった。特に、約90%の中学校の養護教諭が、発達障害の疑い・気質のある生徒の来室の多さを感じていた。このことから、養護教諭は特別支援教育の視点を持ち、来室者それぞれの特性を考慮した保健室対応をすることが重要であると考えられた。

中学校において発達障害(疑い・気質含む)の生徒は、他の生徒と比べて「悩み事の相談」や「休養したい」という理由での来室が多かった。中学校の保健室における相談内容は「人間関係の悩み」が最も多いことが明らかになっている(日本学校保健会, 2018)。また、田中・伊藤ら(2014)は「ASD及びADHDのいずれもその傾向が強い児童生徒ほど、小・中学校で友人関係の問題が生じやすい」と述べている。したがって、対人的な苦手さを持つことが多い発達障害(疑い・気質含む)生徒は、学校生活の中で周りの環境との折り合いがつかず心身ともに疲労し、養護教諭に支援を求めて保健室に頻回来室していることが考えられた。

中学校の養護教諭は「クールダウンの場としての保健室提供」や「健康相談や教育相談等」でかかわっていることが多かった。この結果からも、発達障害(疑い・気質)のある生徒が対人関係に苦戦していることが明らかとなった。また、養護教諭への相談件数は、小学校高学年から中学校にかけて増加し、男子よりも女子に多いことが明らかになっている(日本学校保健会, 2018)。女子の相談件数が多い理由は、宮尾(2016)が「発達障害の女子は、思春期になりコミュニケーションや社会性の特性のために、友達や交友関係において『ズレ』を感じ悩み始める場合が多くなる」と述べていることから、思春期の発達障害の女子が、より複雑になっていく人間関係をうまく保てずに悩むことが多いためと考えられた。

(2) 教育現場での課題把握より

事例1, 2の生徒は、自分の言動がトラブルを招ききっかけとなったことに自覚がなく、周りが全て悪いと考えていた。宮尾(2016)は、「発達障害の子供は、その特性によって周囲から敬遠されたりトラブルになったりすることが多く、たとえ原因が自分にあったとしても、その特性が本人に無自覚の場合が多いため、悪いのは自分でなく世の中だと思い込んでしまう傾向にある」と述べている。今回の事例は、このタイプに当てはまることが考えられた。また、筆者の相談記録の再分析からこのような発達障害(疑い・気質含む)の女子生徒の事例は、他にも多く存在していたと考えられた。砂川(2015)は「ASDの女性は表面的な社会スキルによってASDであることが周囲から見えにくくなっている」と述べている。学校においても発達障害の女子は、男子に比べて、問題自体も表れ方も違うことが多く、障害に気づかれにくいと言える。したがって、養護教諭が保健室に頻回来室する女子生徒に対し、発達障害の特性の存在を含めた対応を行うことで、学校生活における様々な苦戦を軽減できる可能性があると考えられた。

最終的にこの2事例の生徒は、どちらも落ち着きを取り戻し教室に復帰した。しかし、実践を振り返ると、筆者の対応の中に共通した課題が見られた。それは、筆者が事例の生徒に何らかの認知(理解、行動する過程)能力の偏りがあることを感じていたが、その偏りに適した対応をしていなかったことである。熊谷・熊上・小林(2016)は、このような生徒達の行動には、「通常は何かしらの認

知能力のアンバランスが関わっており、それを把握しないことには適切な対応や支援までに持っていけない場合が多い」と述べている。また、杉浦・橋本ら(2016)は、「発達障害の特性に応じた行動支援と心理的対応を行うための、校内の支援体制の整備や実践のエビデンスとなる最新の知見を活用する必要がある」と述べている。さらに、実践のエビデンスに関しては、松尾(2017)が、「KABC-II 心理教育アセスメント検査は、神経学的『理論』をもって、援助介入のための情報や早期対応・支援のあり方を根拠づけるエビデンスの提供ができる」と述べている。したがって、保健室に頻回来室する発達障害(疑い・気質含む)児童生徒に心理教育アセスメント検査を活用することで、得意な認知能力を把握することができるため、より適切で効果的な指導・支援が可能になると考えられた。

(3) 総合考察

調査結果では、小・中学校ともに80%以上の養護教諭が特別支援教育に課題があると回答した。また、対人的な苦しさをもつことが多い発達障害(疑い・気質含む)児童生徒は、周りの環境と折り合いがつかず心身ともに疲労し、保健室に支援を求めて頻回来室していることが考えられた。さらに、その頻回来室者の事例の中に女子の発達障害にかかわる事例が多いことが明らかになった。

以上のことから、養護教諭が、職務の特質と保健室という空間のメリットを活かした心理教育アセスメントを実施することで、発達障害の診断の有無にかかわらず、児童生徒の心と行動の変化に対しより効果的なサポートができると考えられた。また、同時に保護者や教職員に対して児童生徒に適した指導・支援の必要性が理解できるエビデンス提供も可能となることから、学校の特別支援教育に関する課題の解決や学校全体の特別支援教育力の向上につながっていくことが示唆された。

6 今後の課題

次年度は、勤務校において、保健室頻回来室者の得意不得意がどのような能力に関係しているのか、どのような認知機能のアンバランスがあるのかを正確に把握した上で、性差についても考慮しながらの実践研究を行う。さらに、関係職員間で多面的な実態把握を行い、チームで支援・指導を行うことで特別支援教育に関する課題解決と学校全体の特別支援教育の向上を目指す。

引用文献

- 公益財団法人日本学校保健会(2019)「保健室利用状況に関する調査報告(平成28年度調査結果)」。
- 熊谷恵子・熊上崇・小林玄(2016)『長所活用型指導で子供が変わる part5』, 図書文化社。
- 松尾奈美(2017)「教育実践における子どもの認知に着目することの可能性と意義: 認知の評価と教育構想との関連に焦点をあてて」, 『広島大学大学院教育学研究科紀要』, 第3部, 第66号, 89-97。
- 宮尾益知(2016)『ASD, ADHD, LD 女の子の発達障害: 思春期の心と行動の変化に気づいてサポートする本』, 川出書房新社。
- 文部科学省(2018)「発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教師の特別教育支援体制整備ガイドライン」。
- 難波知子(2014)「中学校において保健室を利用した発達障害のある生徒に対する養護教諭の支援」, 『教育保健研究』, 第18巻, 179-187。
- 杉浦采夏・橋本創一・林安紀子・熊谷亮・枘千晶・川池順也・杉岡千宏・中村奈々・三浦巧也・田口禎子(2017)「小学校保健室利用の特別な支援が必要な児童の現況と外部機関との連携に関する調査研究」, 『東京学芸大学紀要(総合教育学系)』, 第62巻, 第2号, 479-485。
- 砂川芽吹(2015)「自閉症スペクトラム障害の女性は診断に至るまでにどのように生きてきたのか: 障害を見えにくくする要因と適応過程に焦点を当てて」, 『発達心理学研究』, 第26巻, 2号, 87-97。
- 田中善大・伊藤大幸・高柳伸哉・原田新・野田航・大嶽さと子・中島俊思・望月直人・辻井正次(2014)「小中学校における友人関係問題に対するASD傾向およびADHD傾向の影響の検討」, 『精神医学』, 第56巻6号, 501-510。
- 渡部美千恵(2013)「通常学級に在籍する特別な配慮を要する児童の支援の在り方: 多様なニーズに応えるための組織的な支援」, 『山形大学大学院教育実践研究科年報』第4号, 284-287。

The Role of Yogo Teacher in Special Support Education: Effectiveness of Psychoeducational Assessment Supporting Children with Developmental Disabled and Their Parents
Hiromi HOSHIKAWA